

Hayama Youth Advisory Council for Global Strategy

日時 7月26日(月) 15時～16時30分

場所 葉山町役場 2階 町長室

参加者 (五十音順・詳細は別紙プロフィール参照)

荒井ひなの：町在住、オーストラリアの高校在学中、グローバルユース国連大使
高波巧：11歳まで葉山で育ちアメリカへ。カリフォルニア大学バークレー校数学科卒業。
成瀬光希：町在住、早稲田大学大学院建築学専攻修士2年。来月からフィンランドに留学。
伴あかね：葉山小・葉山中卒業、英国立大学に通う大学生&フリーランサー
葉山町長 山梨崇仁
政策課 安藤久瑠美：カリフォルニア大学アーバイン国際関係学部卒業
政策課 田村樹理：町在住、オーストラリアタスマニア大学応用科学修士課程
(事務局として政策課 佐野課長、河野、宮崎同席)

議事録 (発言者の敬称略)

話題1：町民向けのSNSで情報発信してみては？

- 伴 町の企画である SAILORS' TREAT のボトルを町民の方に見せたとき「何それ？」と言われた。町民に向けた発信は広報紙のほか、今後どう展開されていくのか。
- 宮崎 町内には広報紙での情報発信がメインになっている。町内向け SNS は、防災防犯ツイッターあるが、町内のみに絞った SNS の運用はあまり考えたことなかった。
- 高波 町外には美しい景色を Instagram で発信しているが、町内の若者向けに町の施策や広報紙の内容を発信すると良いと思う。現在大学院でリモート授業を受講しているので家にいることが多く、広報葉山は家に長時間いる人向けだなと感じた。
- 宮崎 その内容を発信するのに SNS の中で適したものは？
- 高波 Instagram だと思う。広報紙をよく読んでいても「どの時期に英国セーリングチームが来るのか」や「パートナーシップ宣誓制度」について知らなかったのもったいない。町内の若者も知らない人がほとんどだと思う。最近では20代の移住者も増えていと思うので、先進的な政策など発信してほしい。
- 河野 Facebook はどう？
- 高波 世界的にはスタンダードで、海外向けにはそちらをメインで使っている。
- 荒井 日本の若者はあまり使わないかな。広報紙は難しい文章で書かれているので若者には読みづらいので、SNS は気軽な文章で運用してほしい。
- 成瀬 Facebook は難しい内容多く、日本では上の世代が使っているイメージ。
- 田村 若い人にとって町役場は距離が遠い感じがあり、取組みについても周知が足りていないのかもしれない。
- 町長 その点、高波さんや荒井さんは自ら町にアプローチしてくれましたね。

- 荒井 町への提案を送信するのはものすごく緊張したし、返事があると思っていなかった。
- 高波 山梨町長の雰囲気だから気軽に行けた、というのもあるかもしれない。他自治体では受け入れてくれないことも多かった。
- 町長 町役場が何をやっているかわかりづらいから緊張されてしまうのかもしれない。
- 宮崎 それが SNS で発信できれば良いということですね。
- 荒井 町長室に訪問したとき思ったのは、葉山町の職員の方が若くて明るい雰囲気だなと。グローバルユース国連大使として他の自治体で自分の考えを話しても「若いのにすごいね」や「女の子なのにすごいね」という感想を持たれて残念だった。葉山の人は話を聞いてくれる、話してくれるのが嬉しかった。
- 河野 海外の自治体などで情報発信の例を知っている人はいる？
- 伴 イギリスの大学では、YouTube やインスタのリールを活用していた。最近日本のベンチャー企業でも人事部の職員が出演して情報発信などをしているのが話題。インスタは距離の近さが魅力。リールであれば、フォロワー以外にもリーチできるのでフォロワー増えやすいと思う。
- 成瀬 自分の顔が見えない状態でオーディエンスから提案とかできるのも良いかも。
- 課長 情報発信について、この 10 年間で目覚ましい進化を感じる。町民と行政との双方向のコミュニケーションが進み、町の特色として魅力的な取組みになると良い。
- 高波 SNS は発信するコンテンツが重要だと思うが、一つは環境的な取組み、もう一つはソーシャルな内容、例えばパートナーシップ宣誓制度などだと思う。

話題 2 : 町の課題について

- 高波 言いにくいですが、葉山は教育のイメージがあまりよくない、というか教育現場が見えづらいと思う。小中学校と町が連携して、もっと教育現場をオープンにできないか。学校の取組みを町が取り上げる、町の企画を学校に依頼するなどできないのか。
- 課長 町から依頼することについては学習指導要領などのハードルがあるかもしれない。
- 町長 できないことをできるようにするためには文科省のカリキュラムに則って学校が取り組む。できる人たちに対して、より頑張ってもらう仕組みや見せ方について町は力を入れていきたい。
- 高波 これから移住する子育て世代にとって教育の話題は重要。
- 宮崎 町内ではオルタナティブスクールが増えているなど、公立学校以外の選択肢が増えていると思う。SDGs への関心も高く、行政出張サービスなどの申込みもあった。自然を使った教育が増えているのが葉山らしいと感じている。
- 町長 公立学校を経験しなくても、その後社会にアジャストできると思う？ 海外の例を知っている？
- 高波 アメリカでもホームスクールやチャータースクールがあり、それが良い人と選択する人もいるし、認められている。

- 田村 選択肢をどんどん増やすのが良いというわけではないが、学校に行けない子のためにも選択肢があるのは良いこと。欧米ではいわゆる普通の社会にアジャストできない人も、生きていける社会や働き方があるのかなと思う。
- 成瀬 会社に就職するのが普通、という日本従来の考えがあるが、一方で個が大事な時代になっている。会社に就職するという形じゃなくても生きていける子どもを育てるという意味では、オルタナティブスクールなどで「どう生きるか」を学ぶのは良いのかも。建築の世界だと社会に適合しづらい人も多くいて、例えば夜しか活動できない人などアーティストのような印象がある。フィンランドでは「生き方をデザインする」という価値観・考え方もあり、参考になる部分あるかもしれない。行政は社会をデザインするとか。
- 伴 これが普通、というのが言葉にしなくても日本にはあって、自分も高校生の時などいわゆる普通の進路を歩むと思っていた。また、海外留学生向けのキャリアフォーラム（バイリンガル人材のための就職イベント）に参加したとき、オープンマインドの人が多く留学経験者でも「黒髪にリクルートスーツ」という固定観念による服装が多く、そのカルチャーが根付いていることに気付かされた。イギリスではギャップイヤー（学生が大学在学中・卒業後などにインターンシップやボランティアなどの社会体験活動を行うための猶予期間）をとるというカルチャーがあり、新卒についてはむしろネガティブなもの。キャリアについても昇進する一本のルートではなく、パラレルキャリアが良いとされてることもある。一つの肩書きに頼らない、色々な選択肢を持つことができるというのを日本の子どもたちにも知ってほしい。
- 私も今インスタや SHOWROOM のライバーとして海外での生活など発信しているが、行政にもそういった発信のプラットフォームがあると良いかも。例えば若者が立ち上げた「NO YOUTH NO JAPAN（若者向け政治・社会の教科書メディア）」というインスタグラムアカウントでは、グラフィックを活用したスライド式での情報発信がわかりやすいので参考になると思う。
- 安藤 グラフィックでの解説はインスタと相性よく、情報が入ってきやすい。
- 田村 多様性につながる話でもあるけど、普通と違う選択をしたときに「排除しない」のが多様性だと思う。これが良いと町がおすすめるのではないけど、選択肢を紹介することで勇気を持ってもらえるかも。
- 成瀬 様々な選択をしたロールモデルを紹介するとか。
- 伴 憧れるような大人がたくさん住んでいる町ってすごく良いと思いませんか？
- 荒井 葉山にも色々な職業、生き方を選択したいいわゆる「普通じゃない人」がいると思うけど、その人たちの活躍をシェアしても面白いと思う。外国の方も多い印象。
- 宮崎 そのアイデア、YouTube とかはどうか？
- 田村 特別な存在としてではなく、普通の存在として発信するのが良い。
- 宮崎 動画となると、編集のクオリティーと技術・予算面の兼ね合いがいつも懸念されるの

で何か良い方法はない？

伴 クリエイターコラボするとか、町民を巻き込む企画が良いと思う。葉山芸術祭などの例もある。行政主体のかたいイメージを覆すにも良いかも。

荒井 インタビューなら Podcast も良いかも。通学、通勤とか作業しながら聞ける。

伴 成瀬さんと私は留学についての情報発信として Podcast を始めましたよ。

話題3：海外への葉山の魅力発信について

町長 ホストタウン活動も終わる、海外で話題になる葉山を目指すにはどんなアイデアがあると思う？

伴 ロケ誘致などは？イギリスにいたとき葉山の話をするに「もっと英語で発信してほしい」と意見をもらった。英語専門のアカウントやwebサイトを作り、情報発信するなど。フォトグラファーに撮影地として葉山を入れてもらうとか。

町長 国内のフィルムコミッションはしていないが、海外向けは面白いかもしれない。

伴 英語圏の人が見れるならかなり多くの人に葉山の魅力が伝わるのでは？

話題4：性のあり方

成瀬 フィンランドやスウェーデンでは、同性同士（例えば父2人の家庭や母2人の家庭）でも子どもを育てられる政策をしている。例えばマタニティパッケージと呼ばれる物品支給や経済的支援をするなど、また育休をとりづらい男性のためにチャイルドケアを派遣するなど。この政策では、LGBTQだけでなく、シングルファザーやシングルマザーもみんなを救える。このことからジェンダー平等や幸福度の高さにつながっているのでは。

町長 ジェンダー平等について、上の世代は今までの「男らしく、女らしく」などの考えを頑張ってシフトしようとしていると思うが、性のあり方などの多様性についての考えは、今後の日本で根付くと思う？

田村 時間がかかっても根付くだろう。

高波 国によっては婚姻ができるところもあり、パートナーシップ宣誓制度は海外向けには魅力的に映らないと思う。慣れるというものもあり、カリフォルニアの大学でジェンダーニュートラルのトイレができたとき話題になったが、数年で慣れた。

町長 欧米はすごく進んでいる印象だが、まだ発展途上ということ？

田村 まだ海外でもマイノリティが声をあげなくてはならない＝発展途上ということ。日本が遅れているとマイナスに捉えるのではなく、より良くなる経過と考えたい。台湾では同性婚ができるようになり、同じアジアでもできる証明になった。まだ同性婚ができない国の方が多いけど、今は変換期で頑張る姿勢が大切だと思う。

宮崎 どんな家族の形でも暮らしやすい町っていうのが葉山の理想？

高波 できればそれを町単位ではなく、隣の市などと自治体間で連携するとなお良い。

町長 パートナーシップ宣誓制度は三浦半島4市1町でイニシアチブをとっている。

話題5：姉妹都市のあり方

高波 英国セーリングチームからイギリスの都市を紹介してもらい、新たな姉妹都市を締結するというのはどうか？

町長 国際的な姉妹都市はオーストラリアのホールドファストベイ市があり、新たに大きな費用がかかることは難しい。一方で、海外からヨットをしにくる町としての魅力も持っている。海外でのセーリングはどんなイメージ？

高波 アメリカだと良い大学の人やっている。

伴 イギリスでは階級社会が残っていて、名家の子たちが習い事をするものかな。

高波 葉山は格式高いというセーリングやきれいなビーチだけでなく、庶民的な雰囲気も伝えられるとなお良いと思う。

成瀬 県立近代美術館 葉山の展覧会で、その国や地域の個性を感じるがあった。中庭で地域クリエイターとコラボするなど、アートを軸に国際化するなどはどうか？

町長 山口蓬春記念館やしおさい博物館と葉山芸術祭での連携もあったが、軸にするとまではしていないのが現状。また、それは一時的に集客あるが、やはり周知などの発信が下手なところがあるのかもしれない。

成瀬 美術館には町民の年パス制度もあったら良いな。

田村 ヨーロッパでは博物館など無料のところも多い。

安藤 アートを大切にすまちづくりは、余裕があるというようにイメージが良い。

宮崎 文化芸術は言語を超えたコミュニケーションもでき、多くの世代がいろんなものを感じ得られるのでは。

高波 美術館に関わっている日本の大学教授とかいないかな。大学だと留学プログラムがあるので、海外留学生向けに芸術ツアーを組むなど。デンマークやシンガポールなどで経験したことあり、参考になると思う。

安藤 民間や住民と自治体が一緒になった取組みは、海外の姉妹都市交流の事例でもある。

町長 今日このメンバーがまさに一緒に協力してくれる、意見をくれる人たちだと思っている。今日はプレ開催だが、今後は参加者を広く募集してこのような機会を作っていくのでご参加いただきたい。

【中高生議会に移動】

質問1：英語を話せるようになるには？

高波 自分場合は突然アメリカに移住することになり、2年くらいでしゃべれるようになったと思う。留学してみるなどの勢いや行動力も大切。日本では発音をすごく気にするかもしれないけど、アメリカではそんなに気にしていないと思うので、とにかく

く話すこと。

安藤 好きな映画を見るとき、①英語音声で日本語字幕、②英語音声で英語字幕、③英語音声のみ、と繰り返し見るようにすることで耳が慣れた。映画によってはスクリプトという台本も公開されているので参考に見てみると良い。

田村 どんなやり方でも合う人・合わない人がいると思うから、なんでも色々試してみてもいい。

荒井 英語で日記を書くようにしていた。わからない単語があれば調べて書くので覚えるようになる。

伴 私は語学留学（英語を学ぶための留学）ではなく正規留学（英語で他のことを学ぶための留学）だったため、留学前に英語ができなくてはならない状況だった。まずはiPhoneの設定を英語にする、Siriに英語で話しかけることを習慣づけていた。また話す内容について、母国語で自分の考えを伝えられるようにあらためて日本語を学ぶこともした。

成瀬 文法などの勉強以外では、NHKの基礎英語を声に出してやるようにしたかな。英語の順で物事を考える癖がついたように思う。

質問2：海外経験のある皆さんが思う「日本の遅れているところ」って？

成瀬 ジェンダーの平等

荒井 個性を尊重すること

伴 現金しか使えないこと。他国ではキャッシュレス化が進んでいる。

高波 小学校よりも上の教育システムについて。例えば中学校以上ではもっとディスカッションの機会を設けるなどしてほしいと思う。

田村 あまり「遅れている」と思うのは好きじゃないが、今後ステップアップできる可能性があるものとしては、「人と違うことを選択したら叩かれてしまう社会」を変えていきたいと思う。就職するには新卒でなくてはならないということや幅広いキャリアの選択なども。

安藤 いわゆる「日本人らしい見た目」ではない人への苦手意識が強いように感じる。

質問3：世界でたたかえるアスリートを目指しているが、世界に羽ばたく上で心がけることは？

安藤 勇気、自分を信じる力。

田村 日本国内で色んなことができて海外にいったらマイナスからのスタートということもある。それでも落ち込まずに受け入れる。思っているより周りの人は自分を見ていない。アスリートとしては自分自身を主張することも必要かもしれない。

高波 大学時代の友人で、日本からアメリカの大学のコーチに「陸上やりたい」といきなりメールをする行動力のある人がいた。日本では冷ややかな目で見られるようなこ

とも、海外ではやった方が良いチャンスにつながることも。

伴 ①小さな一歩を踏み出す行動力。常に自責思考で、小さな壁をひとつひとつ乗り越えていくこと。「やってみなきゃ分からないよね?」と言って最初に声を上げられる、肝が据わっている人になること。「よし、ここで積極的に動くぞ」と決意を固められる人。生きていく力が養えます。

②甘える力、人を頼ること。「自己開示」=「自分で何とかする」ではなくて、時には人を頼って「自分の中にある弱さ」を認められるようになること。「自分がすべてできるわけじゃないから、この部分はあの人に相談しよう」という風に、目の前の事柄により形で対処していける人は「自分の中にある弱さ」を認められる人です。人は頼られたら嬉しい、だからどんどん借りを作って恩返しする=またその人と繋がれるチャンスを作ることにもなります。

何でも自分でやってしまう性格ではあるが、ふとしたとき留学先の友人や帰国後に大人に頼ったらかわいがってもらえるきっかけになりました。

荒井 同じく人を頼るのは大切だと思う。見ず知らずの土地でホストファミリーの手間になりたくないとなかなか相談できなかつたときも、ふとしたきっかけから学校に相談したことで改善につながった。一人きりで抱え込みすぎないことが必要。

成瀬 これから留学する身として行っているのは、その国の言語から国を学ぶ、尊敬の念を持つこと。また留学用のSNSアカウントを作って現地の人にDMするなどしている。

質問4：人生最大の失敗は？

成瀬 以前「あなたが留学することで社会に何を貢献できるか」との質問に答えられなかった経験があり、それ以来社会への還元について考えるようにしている。

荒井 子どもの頃からもっと本を読んでおけば良かったと思う。自分の考えを相手に伝えるために、本から学ぶことは多い。

伴 日本の大学受験に失敗したとき。でもそのおかげで180度考え方を変え、留学したいと思っていたことを思い出したので今がある。失敗もチャンスととらえた。

高波 友人との関係でもっと大切にしておけばよかったということはある。みんなも今いる仲間や将来出会う人たちを大切にしてほしい。

田村 学生時代は「野生動物を研究したい」「この先生のところが良い」とやりたいことに固執しすぎていたかも。もっと視野を広く持てたら良かった。

安藤 学生時代は斜にかまえて人の意見や気持ちを素直に受け取る姿勢ができていなかったかもしれない。皆さんはすでにできていると思うが、素直に受け止める心を持ってほしい。

以上